

建築静岡 MARCH 2010
第620号 平成22年3月1日発行
昭和33年12月25日 第3種郵便物認可
発行所 社団法人静岡県建築士会
静岡市葵区御幸町9番地の9
TEL 054-254-9381
印刷所 有橋本印刷所

昭和33年12月25日 第3種郵便物認可
平成22年3月1日発行 毎月1日発行
KENCHIKU SHIZUOKA

2010
No.620

建築静岡

<http://www.shizu-shikai.com>

3
March



二侯城址石垣



建方終了後



真夜中の二侯一夜城



社団法人 静岡県建築士会

定価一部250円 送料一部100円
会員の方には購読料として会費の
中に含まれています。

■ 特集 第24回 国民文化祭 しずおか2009
城跡フェスティバル

基準日における届出手続きについて

住宅瑕疵担保履行法では、**建設業者または宅建業者**に対し、毎年**3月31日**および**9月30日**を基準日として、基準日より**6カ月以前**に引き渡した住宅について、保険の加入状況に関する届出手続きを基準日より**3週間以内**に**所管行政庁**へ行うことが義務付けられています。

チェック 1

届出手続きに必要な書類は？

1. 届出書
2. 保険契約締結証明書又は供託書の写し
3. 引渡し物件一覧表



チェック 2

いつまでに届出すればいいの？

基準日から3週間以内に届出する必要があります。
今回は4月21日までとなります。



天守閣の据え付け直前



天守閣内部



城内部は、木組みのみ。単管足場に繋ぐ事によって強度を保っている



金の鯨鉾は発泡スチロールを土台に金紙を貼ったもの



天守閣を吊ったワイヤーを取り外す為の出入り口



天守閣から天竜川の眺めは格別である

届出手続きのフロー

(資力確保処置につき、全て保険加入の場合)

ステップ 1 保険契約締結証明書の確認

保険に加入している場合、基準日後に契約保険法人から「保険契約締結証明書」及び「明細」が送付されます。

※保険法人から送付される書類には、責任保険にお申し込み頂いた住宅のうち、保険証券発行済の物件のみが記載されます。

ステップ 2 届出書の作成

届出書・引渡し物件一覧表の書式は国土交通省 HP よりダウンロードして使用することが出来ます。

また保険法人より送付された「明細」に自社の情報を記入・捺印していただくことにより「引渡し物件一覧表」として利用することが出来ます。

国土交通省 届出書式ダウンロードページ

<http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/jutaku-kentiku.files/kashitanpocorner/9-yousikidl.htm.htm>

ステップ 3 行政庁への届出

届出書類を行政庁へ郵送、もしくは持参してください。

静岡県知事の許可・免許を受けている場合は、所在地を管轄する**土木事務所**に、国土交通大臣の許可・免許を受けている場合は、**中部地方整備局**に書類を提出します。建設業許可・宅建業免許の両方を受けている事業者は、それぞれについての届出が必要になります。

住宅瑕疵担保保険フリーダイヤルの廃止について

平成 22 年 3 月 31 日をもって、住宅瑕疵担保保険についての問合せフリーダイヤルを廃止致します。

4 月 1 日以降の住宅瑕疵担保保険に関するお問い合わせは、以下の電話番号へお願い致します。



国土交通大臣指定 住宅瑕疵担保責任保険法人

財団法人 住宅保証機構

TEL : 03-3584-5748 FAX : 03-3589-3603

お問い合わせは

(財) 静岡県建築住宅まちづくりセンター

住宅保険課

TEL : 054-202-5574 FAX : 054-202-5282

二俣城址

<二俣城の構造>

標高90mの台地上に築かれた二俣城は、北側から北曲輪・本丸・二之曲輪・蔵屋敷・南曲輪がほぼ一直線に配置されている。天守台のある本丸の南・北にそれぞれ虎口設け、北虎口は喰い違い虎口である。本丸西側には小規模な天守台が残っており、石積みは野面積みである。本丸の南側には二之曲輪があり、枘形門跡がある。二之曲輪と蔵屋敷の間、そして蔵屋敷と南曲輪の間にはそれぞれ堀切がある。

<二俣城をめぐる攻防>

永禄11年(1568)12月から天正3年(1575)12月までの7年間、二俣城は、徳川・武田両氏の攻防の舞台となった。二俣城は天竜川と二俣川の合流点に位置する天然の要塞であり、しかも、二俣は遠江の平野部と北遠の山間地方とを結ぶ交通路の結接点で、遠州平野の「扇の要」であったからである。

<徳川家康自刃事件>

大久保忠世が在城中に起こった事件として、有名なものに家康の嫡子信康自刃事件がある。

一般には、信康とその母築山御前が武田氏と通じていたことを理由に、織田信長が信康を切腹させるよう家康に命じたとされている。

家康はこれを受けて信康を天正7年(1579)9月15日、二俣城で切腹させた。この事件は戦国哀史として広く知られている。

■第24回 国民文化祭 しずおか2009 城跡フェスティバル

「二俣一夜城」……………2

小城 武史

コーヒーブレイク ……………8

「音楽道楽」……………熱海支部

「ソリティア」……………御殿場支部

「博物館の親子」……………志太支部

「珍バンド」……………中遠支部

「田舎」の建築文化史 ……………10

常葉学園大学 土屋 和男

景観整備機構【瓦版】(第38号) ……………11

地域文化財専門家・世話人 鈴木 敬雄(中遠支部)

地域貢献通信 No.4 ……………12

土屋 勝美(静岡支部)

事例から学ぶその5 ……………中谷 悟(二俣みかきの会)

活力ある二俣再生プロジェクト

2009しずおか木造塾 第4講座(設備) ……………14

早津 和之(官公庁支部)

「建築照明の勉強会」第2回講座 ……………16

東部ブロック青年企画委員会 杉山 明生

技術レポート「免震構造物の定期点検について」……………18

(株)免震テクノサービス 古畑 成一

(株)アンデン東京 遠藤 守

理事会議事録 ……………20

専攻建築士のオープン化 ……………25

お知らせ……………26

入退会者一覧

編集後記

まちづくりセンターからのお知らせ



二俣一夜城

小城武史設計

昨年、第29回国民文化祭を静岡県が担当し、県下で98の事業が開催されました。浜松市でもいくつかの事業が企画され私の住む二俣（浜松市天竜区）では、徳川家康と武田信玄の戦いの地であった二俣城を復元し、「その場で時代の一瞬でも再現できたら」という企画が実施されました。

二俣には、11.2m×9.1m高さ4.7mの石垣を中心とした二俣城址（注1）があります。15年前私の行きつけの喫茶店の、常連客同士の仲間で、（大工さん・会社員・材木屋・教師・電気屋・自衛隊員等）

いたずら半分遊び心一杯で、2週間程の作成期間をかけ城址の石垣の上に、3mm合板（もらい物）とペンキで『二俣一夜城』と銘打って2層の城を創ったことがありました。

張りぼての城です。

その話を聞いた浜松市の担当者が、「また城を創らないか」と、私共に声をかけてくれました。「おもしろい、やらまいか」という事で、設計、加工、築城、撤去、全て引き受けました。

そして設計を、私が担当する事となりました。

二俣一夜城再びです。

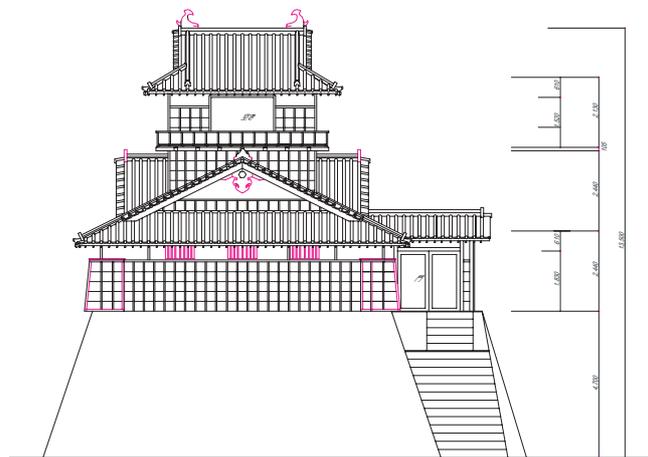
城の歴史背景、構造、規模、意匠、など、また、国定公園内、基準法、等の規制は、何も受けない期間限定20日間の二俣城復元です。

まず設計するにあたり、以下の留意点を挙げ

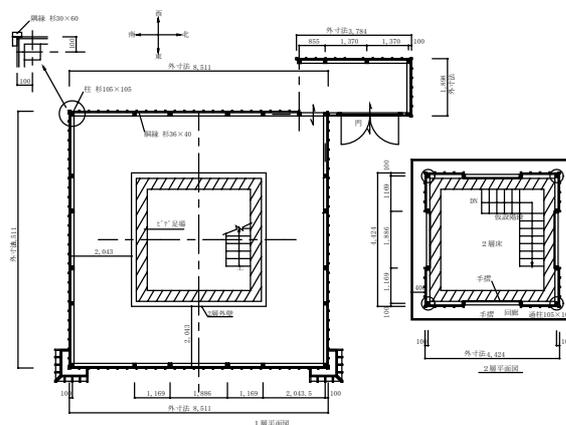
- 一、一般の方々が加工に参加できる事
 - 一、材料は身近な物で又、材種は少なく
 - 一、とにかく低予算で（材料だけ一部有償）
 - 一、加工した部材は、繰返し使用出来るように
 - 一、11月の復元ですので風対策をしっかりと
 - 一、石垣の高さが4.7mなので、組立作業は、平地で出来るように（安全対策）
 - 一、石垣上部の石に荷重をかけない事（公園課）
 - 一、城址とくに石垣その周辺の現況を変えない事
- これら8項目を設計条件といたしました。

基本設計に入る前、市価の3割弱で12mm合板が、購入できるという情報が入り、早速、壁と屋根はその合板でと決まりました。

これで基本設計に入ります。まず城の規模、大きさです。石垣上部の平地に納まるよう、又、合板寸法を加味して、一層寸法を8.5m角の正方形とし、二層寸法を4.4m角の2階建てとしました。当然構造、高さも考えながらの作業です。



立面図



平面図

構造材は、以下のような考えで決めました。

壁と屋根は12mm合板に決まっていますので、壁合板取付けは45×36の胴縁（@610で横に流す）に、屋根合板は、母屋を設けてそれに直打ちとし、また、不陸の無いよう取り付けたい。その様に、一・二層の壁、屋根を取付けるには、土台、柱、頭継、梁、通柱、管柱、桁、母屋、束、の身近な材での対応が必要になり、全て10.5cm角の正角にしました。その様な材なら、取り外せばまた、使用可能だからということでも、この材を使う構造にしました。

一層4面の壁は直に据えても何とかできますが、基礎は設けられませんので、二層の壁・屋根の取り付け方法を考えなくてはなりません。そこで、平面の中央に、核となる4m四方の単管足場を組み（地盤をいためないように）固定し、一層の屋根、二層の壁・屋根をこの単管足場で支えることにしました。具体的に云うと、二層の土台を一層壁の頭継と同じ高さで単管足場の廻りに据付、その土台より4.8mの高さに桁を廻し、また、土台より2.4mの高さに回廊を付ける為の持ち送り材を取り付けたい為、その高さに胴差を廻します。そして、通柱、管柱、桁を据えて、壁・屋根を支えるという構造計画です。

このような経過で基本的な計画が出来、平面図、

立面図、矩計図、構造図を作成しました。そして仲間、関係者に説明し承諾を得、基本設計が完了しました。

一層8.51m×8.51m×h2.7mの4面越屋根付き、二層は、4.4m×4.4m×h4.7mの入母屋。そして石垣下からの高さ13.7mの城となりました。合板の壁と屋根だけで、「如何に城らしく観せられるか、それを建築にいわゆる素人の人達が組み立てられるか、加工出来るか」を、設計の方針にと心がけながら実施設計に入りました。

構造材の加工は、素人の人達では、やはり無理なので大工さん(仲間)の手を借りなくてはなりませんでした。やむをえません。そして詳細図の作成に入りました。この設計での詳細図とは、12mm合板の壁と屋根の加工図です。建築に素人の人達が加工できるような図面でなくてはなりません。壁、屋根のそれぞれ合板1枚ごとの寸法を明示し、どんな寸法でカットし、何処と何処にどのように継ぐのかを、そしてどのような仕上げかを表示した図面です。

具体的に壁に関する図面では、板壁と漆喰壁を表せたらという事で、ペンキ(水性)の塗り分けで対処し、栈木をどこに打ちつけ、より板壁らしく観せるようにし、カット寸法は入母屋の三角の中壁の寸法



外壁になるベニアに塗装中



屋根瓦の作成中

が主な表示となりました。

さらに屋根の詳細図では、まず勾配の表示です。一層庇屋根は5寸、越屋根は7寸、2層入母屋は6寸と、統一性のない勾配ではあるが、外観は以外と調和もとれ、観てくれも好いので決めました。そして前述のようにカット寸法、継ぎ箇所等の表示です。

このように詳細図を書き上げ、皆に説明し理解を求めました。図面がA3と小さく、図面の意図した表現が、なかなか伝わりにくいので、フリーハンドですが、A2用紙に壁、屋根の合板一枚ごとの寸法を、改めて記入し加工図としました。

以上で設計が終了し、次に積算です。材料の数量調書の作成です。

正角材	10.5×10.5×3m	4m	210丁
胴縁・棧	45×	36×4	350丁
副資材	60×	30×4	50丁
壁合板	1830×943×12		170枚
屋根合板	1830×943×12		120枚
紙パイプ	φ90×1000~900		450本
塗料			500㎡よう

主な材料を発注し、仲間所有の具合の好い作業場が借りられ、早速資材を運びいれ、加工作業に入りました。まず、板壁、屋根の合板に、茶、グレーの

吹き付けをし、それぞれの下地合板を作りました。板、瓦の表示方法として、板厚、瓦厚に相当する部分をパターン化した定規（それぞれの厚さをくり抜いた4mm合板）を大工さんが作り、それを使い、板、瓦が表現できました。みんなに好評で作業効率も良くはかどりしました。

屋根は本葺きの瓦らしさを出したく、仲間の一人が見つけてくれた径90mm長さ900mm~1000mmの厚紙の円筒（ビニール袋の巻筒の芯）を半割にし、瓦絵を描いた合板に取り付けて本葺きの瓦としました。瓦葺き屋根には、当然棟があり、降り棟もあり、熨斗もあります。今回さらには鯨までも取り付けました。

棟は合板を箱状に加工し、熨斗は径175のボイドチューブを半割にし、塗装後伏せました。

鯨は、発砲スチロール材を加工（主に削り）し、金紙を貼り付け作成してくれました。図面ではおおよその大きさを図示しただけで、仲間が考え調べ作ってくれました。

垂木を使わない構造ですので、軒裏が寂しく、また軒先もある程度の厚みを、観せたいということで、茅負いの代用として90×30の杉材を、その下に3mm合板を取り付け、その下に45×36の垂木材（庇



建方は一般住宅と変わらない

の出の長さ)を@360で取り付ける。つまり梯子のようなものです。その梯子を軒先の合板に下から取り付け、化粧垂木が在るように観せました。

瓦葺きですので、軒先には万十瓦が必要です。3mm合板をくり抜いて作業に入りましたが、あまりの量の多さで、工期に間に合わないので、厚紙で代用いたしました。

以上の様な作業を、仕事を終えた後19:00~23:00位まで、14日間延べ110人程で各パーツ、部品を造りあげました。

別作業場での構造材の墨付け、刻みは、仲間の大工さんだけではならず『天竜・浜北建築組合』に応援を頼んでくれ、12人有志が集まってくれました。

資材全ての加工も終わり、城址へ運び、建て方作業を始めました。

建て方は、3日間の予定でしたが、雨にあったり、組立てに予想外に時間をとられたりで5日間掛りました。

建て方作業に入る前に、核となる単管足場は、仲間の知り合いの業者が、格安の値段で架けてくれました。位置出し、高さ決め、仮設階段取り付け等は、現場指示でした。仲間の大工さんの協力がなければ出来ない作業でした。



天守閣を吊る

建て方前の作業として、ひとつ大きな問題がありました。石垣の上部、つまり4.7mの上の平地ほぼ一杯に城の大きさ(平面)を決めたので、石垣の一部にも一層壁の土台が乗ってしまいます。これは、設計条件にも反しますので認められません。そこで砂を2トン程運び込み、土のう袋100袋を作り、それを石垣より少し高く敷き詰め、その上に厚さ45mmの板を並べ、水平を保ちその板の上に土台を敷くという複雑で厄介な作業になってしまいました。以上の作業は、本来私の計画すべき作業でした。反省点です。しかし仲間全員の結集した力がみられ、それはそれで嬉しい一時でした。

私の建て方の計画としては、一層の壁は、石垣下の平地で1面(8.51m×h2.4m)全て土台・柱・頭継・壁合板を組立て、それをクレーン吊りで据えつけるという計画です。大工さんの工法としては、前述の土のう袋の上に土台を敷くのは、全て組立て後では、「まず無理だ、不可能だ。」という見解で、話し合いの末、全ての作業は石垣の上でとなりました。もともと建て方用の足場は、計画に在りません。ですから、そうなるで一層の壁が張れません。そこで大工さんの機転で、鋼管の持ち出しの足場を架けてもらい、何とか一層の壁を張ることができました。



天守閣の試し吊り



鯨鉾が帽子に早変わり

二層の下地の正角材を核の単管足場に取り付けている間（主に8番線）、平地で二層の屋根（桁より上部分）軒裏の化粧垂木、万十瓦、棟、鯨、も全て組立て、クレーン吊りで所定位置に据えつけるというのが、私の建て方計画です。構造材刻みの時点で、大工さんに言わせると、「重すぎて、一括クレーン吊りは、無理ではないか」との意見でした。しかし、作業所で刻みも終わり仮組みし、クレーン車を着け、仮揚げしたところ問題なく揚がったので、計画通り行けると、大工さん達も納得のクレーン吊り作業となりました。

この二層の屋根吊り上げは、受け入れ側（大工さん8人）での、所定の位置への取り付けが、相当手間が掛かるのではと思っていましたが、意外とスムーズに行き、刻みの正確さと、チームワークの良さがよく現れていました。

二層の壁、一層の屋根の組立てが終わり、完成に近づきました。壁・屋根パーツの寸法違いも無く、素人の技術もなかなかのものでした。

その後、回廊の手摺、懸魚、門扉の取り付けも終わり城が完成いたしました。

作業中、お互い初めての事が多く、大工さんとの工法あるいは材の仕様法についていろんな意見を出

し合い、素直に話ができ、楽しい時間を持つことができました。

そして12日間のお披露目となり、関係者・訪問者・見学者には、高い評価を頂き、各イベントも無事終わり、いよいよ撤去となりました。撤去作業は朝8：00より始め、2：00には全て終わり、各部材はまとめて所定の倉庫におさめ1日で済みました。

この期間中誰も怪我せず、事故も無く無事終了出来たことは幸いでした。

いつの日か、倉庫に眠る一夜城が、又石垣の上に乗る時が、あるかどうか楽しみではあります。

（本文中大工さんとあるは、当会員の内山孝氏であり、執筆中お世話になりました）

注1)

二俣城（ふたまたじょう）

遠江国豊田郡二俣（現在の静岡県浜松市天竜区二俣町二俣）にあった山城。天竜川と二俣川に挟まれた天嶮に恵まれた中世城郭として名高く、武田信玄・勝頼親子と徳川家康がこの城を巡って激しい攻防を繰り広げた。現在は、天主台の石垣と土塁、堀が遺構として残されている。



石垣の上はデコボコだらけ
足場板を敷いて土台を据える



天守閣の骨組み



骨組みは毎晩職人衆の手によって作られた



天守閣は下で組み立てられた



石垣の高さ4.5mの建て方



建築科の高校生も参加

COFFEE 無礼句 BREAK

音楽道楽

熱海支部

M

最近のコマーシャルや番組の挿入歌など、たまに昔の音楽が流れる事に気づく事がある。

昔我々が青春であった頃を思い出すような曲（洋楽・邦楽共）ハードロックのバンドが全盛期だった頃の曲や、ディスコがどこの町にもあった頃の曲や歌謡番組がたくさんやっていた頃のアイドルの曲など様々だが、それぞれ個性的で印象に残っている曲がほとんどだと思う。時代の流れや流行だとは思いますが、最近よく目立つのがラップの入った曲が多く別に悪くはないけれど、中には良い曲もあるけれど忘れられる歌が多いような気がします。自分が年をとったからかもしれないけれど、昔の曲がカバーされたりしているのはその部分が無きにしもあらずだと思います。

今のようにカラオケが広まる前には生ギターの伴奏で歌ったり、ピアノの伴奏で歌ったりしていたようですが、これが意外と慣れないと歌いづらいようで、カラオケのようにペースが一定で歌わなくても、

伴奏がこちらに合わせてくれるので演奏者と息があえば素晴らしいのですが、そこまでいくには何度も練習が必要だと聞いたことがあります。

自分の知り合いの民宿には、リビングにグランドピアノが設置してあり（オーナーは弾きませんが）音楽好きなお客が集ってくる民宿なので、音楽サークルの合宿やウクレレ好きのおやじや元名の知れたバンドのピアニストなどが、良く出没しては酒盛りをしては、音楽を楽しんでいるようです。

たまたまその民宿に遊びに行ったときピアニストの先生が来ていて息トウゴウしました。先生のお歳は70代後半ですが、とてもエネルギッシュなピアノで圧倒されました。最初はこちらも照れくさくナガシテ歌っていたのですが、だんだん乗せられて素敵な時間を過ごせました。やはり歌は定番の曲ですがそれを歌いこなすのがまた楽しいのです。

これからは、オールディーズやスタンダードナンバーを練習してレパートリーを増やさなくては！

ソリティア

御殿場支部

エルガー

今、この原稿を書きながら、一方ではソリティアをやっています。締め切りが過ぎて催促されてまだ題名さえ決まらない。原稿用紙はもらっていても、Wordで書くのに慣れているので、パソコンを立上げWordを開きさて何を書こうか？と悩んでいるうちに、知らず知らずソリティアをやり始めていた。パソコンはDELL製で付属ソフトは何もないはずなのに「ソリティア」や「フリーセル」は定番で付いてくる。

CADで図面を描いているときも、ちょっと納まりに悩んだり、根を詰めて腕力感にとらわれた時、知らず知らずソリティアをやり始めている。また、これが、得点制・時間制があって、やり始めるともう少し、あとちょっと、とどんどん時間が過ぎていく。あ！もう昼だ、と時間を忘れて没頭することもしばしばで、その後ですごく後悔する。いっそ、パソコンから削除してしまえばいいのだけれど、何か勿体

なくてそれもできないでいる。「パチンコ」に似て非なるものだが、もう少しやれば高得点がでるという博打に共通の儂い望みはかなり似ている。

自分が設計事務所に勤め始めたころは製図版に平行定規で、一度トレペを貼ると一気に描き上げなければ、はがせないで集中したものだ。描き終わらなければ残業するのは当たり前で、今考えるとかなり能率は良かったんだと思う。これがCADで図面となってから、いつでも終えられる。今日は疲れたからここまでにして、後は明日にしようと思った自分が背中を押して、またソリティアを開いている。

「今日は疲れたからちょっと気分転換」とまた没頭してしまう。

でも、その「ソリティア」が今回の原稿のテーマになってくれた。感謝します、ソリティア様！！

博物館の親子

志太支部

川越し街道の人

上野の東京国立博物館に行く機会があった。偶然「国宝 土偶展」が開催されていた。

日本史教科書の初めのページに出てくる例のアレです。眼鏡をかけているかのような大きな目で、デフォルメされた唐草文様の宇宙服を着たアレだ。実物は身丈50cm程の姿で、かつて教科書で見た印象から受ける大ぶりのイメージとは違っていた。とは云うもののずっしりと焼しめた遮光器土偶（重要文化財）は力強く、やわらかで身のつんだ感じは防弾ガラス越しでも見る側に伝わってくる。この形が3500年前の祈りの姿なのかとふと思った。そんな土偶たちにお別れして、他の膨大な量質の博物をじっくり鑑賞する余裕もなく駆け足で巡り、おだやかな正月びよりの外に出た。

国立博物館は本館、表慶館、東洋館、法隆寺宝物

館、平成館等の建築群からなるもので、その収蔵展示物は丸1日かけても見きれない。なのでその建築群を見て廻ることにした。本館（昭和13年）は渡辺仁の帝冠様式、表慶館（明治42年）は片山東熊の迎賓館様と近代建築史に登場する。その時代を代表する建築に圧倒され満足して帰静した。事務所に戻って、東洋館（昭和43年）はだれの設計だったのかと調べてみたら谷口吉郎とのこと。かつて見た資生堂アートハウス、東山魁夷美術館、葛西臨海水族館等そして敷地内の法隆寺宝物館（平成11年）の設計者谷口吉生の父上であった。正面本館、表慶館に敬意を払うかのように東洋館は正門から右手、法隆寺宝物館は左手と2つの建築は向き合うように配置されていた。国立博物館は、日本近代建築史から現代建築史への系譜を親子の出会いで伝えている。

珍バンド

中遠支部

疲れ気味のおっさん

中学校時代からバンド（欽ちゃんバンドのような）を始め、この歳？になっても楽器とは一応縁があるバンドを始めた理由は単純に「カッコいい」の一言。やたらラジオを聴いてはこの曲がいい、あれはすごいとプロの曲を真似していた。自分の担当はドラム。部活を終え家に帰ればマット（なぜか布団の下に敷くのがはやっていたような記憶がある）を叩き練習。そのうち親父から「うるさい」とよく言われたものだ。

練習を繰り返し、そのうちなんとか人前で演奏ができるかな？とバンドメンバーおのおのが感じだした。そうなれば人前で演奏が妙にしくなる。どこで演奏しようと考えたがなかなか演奏場所がない。中学生だから費用の掛かる演奏場所は大変だ。考えた末、公共の楽器練習室を借りることにした。よいよ無謀な演奏会開催を計画してしまった。

場所を借りることはできたが、聞いてくれる人をどう集めようか。なかなか会場までは距離がある。

バスで会場までという中学生だからなかなかむずかしい。というより、誰がお金を使ってまでこのバンドの演奏を聞きにくるかというのが正解なのだが。結局は遠いところでもなんら苦にしない自転車野郎の男共ばかりの客になるのはすぐ想像がついた記憶がある。その上何か出るんだろうなというような感じで"お菓子と飲み物"付となってしまった。今考えるとハイエナのような中学生の仲間である。

演奏はまあまあ出来だったが、音はずせば躊躇なく笑われる。なんていう客だ。何だかんだのうち演奏は終了。ここでまた妙な達成感に。

いい思い出だが、だんだん歳を重ね、子供達も成長し、またバンドの再結成ができればと思うようになってきた。今度はぜひ女性のメンバーをと勝手に決め付けているが、おじさんバンドに若い女性はこないだろう。当然だ。せめてかわいいオバサンでも参加して頂きたいと切望しているのは俺だけか？

「田舎」の建築文化史

ヨーロッパ その1

土屋和男
常葉学園大学

中世という時代



●中世の意味

歴史を大きく分けると、古代、中世、近世、近代という。中世は英語のmiddle ageやフランス語のmoyen ageの訳で、「中間の時代」という意味になる。何の「中間」なのか。

それは古代と、その復興であるルネサンスの「中間」である。re-naissanceというフランス語は「再び-生まれる」という意味で、古代が再生したことを意味する。このことを知るのには建築的にはとても簡単で、古代ローマ期に使われていたデザイン、すなわちドリス、イオニア、コリントの柱頭が再び使われるのがルネサンスなのである。もう少し正確に言うと、それらの柱頭を載せた柱の径を規準にして、柱間、梁背から細部の装飾に至るまで、建築全体を比例の体系として整えていく考え方が支配しているのが、古代とルネサンスなのである。この考え方を古典主義という。そして中世は、この古典に挟まれた時代という消極的な意味しかもっていないのだ。

●再利用と転用の時代

古典主義の柱頭が使われるのが古代とルネサンスと言ったが、実は中世にもこれらは見られる。しかし、しばしばそれらは古典主義の法則からすると「変な」使われ方をしている。部分の装飾としてはそのとおりでも、全体の比例体系がおかしかったり、同じ役割をする部材がバラバラだったりする。

実例をご覧いただきたい。ローマの「真実の口」で有名なサンタ・マリア・イン・コスメディンは6



ローマのサンタ・マリア・イン・コスメディン内部：柱身、柱頭の素材、ディテールが違う

世紀から12世紀にかけて姿をなしたという、まさに中世の遺構だが、その内部には古典主義の柱が並んでいる。ところが、これらを見ると、構造的には同じ役割をするはずなのに、それぞれ柱身や柱頭の素材やディテールが少しずつ違っている。左右を見ても、そのばらつきには法則性がない。

普通に考えて、新築の建物で新たに材料を調達したのなら、こんな面倒なことをするだろうか。おそらく、古代の遺跡から部材を転用したことから、このようなことが生じたのだ。異なる場所から移した柱身も、柱頭で調整すれば長さを揃えられる。

古代ローマの残した建築は巨大かつ膨大であった。古代ローマが滅びた後も、それらはまるで地形の一部のように強力に存在していた。中世の建築にとって、古代ローマの遺跡はあらかじめ加工された部材が転がっている石切場だったのである。

●建築史の空白期

古代ローマが支配し、建築を残した地域は広大であった。中世ヨーロッパの大半で、多かれ少なかれ遺跡が再利用され、転用されたと思われる。

一般に、中世は古代ローマが滅びた4,5世紀からを言うが、西洋建築史にはその後長い空白期がある。様式で言えば、6世紀こそ初期キリスト教、ビザンチンの著名な建築がつくられるが、その後ロマネスクが現れる10,11世紀までの、7,8,9世紀の遺構はきわめて少ない。300年もの間、新たな建築が歴史にほとんど現れないのはなぜなのか。

ここから先は推測なのだが、古代ローマが残した建築が非常に強固だったために、それを転用すればよく、また新たな建築をつくるほどの意欲も、社会的要請も、人的・物的システムもなかったからだと思う。たぶん、古代ローマの神殿や劇場に、人々が勝手に住み着いているような光景だったのではないだろうか。そして、こうした期間が長く続くうちに、やがて建築のノウハウも失われたのだろう。

次の新たな建築には、異文化を待たなくてはならなかった。



ローマのサンタ・マリア・イン・トラステヴェレ内部：異なる柱身を異なる柱頭で調整している



旧岩崎家住宅（洋館）（重要文化財）（東京都）
設計 ジョサイア・コンドル



小屋組は洋トラス

■坂本龍馬と岩崎邸

NHK「龍馬伝」は明治維新の立役者の一人、坂本龍馬を描いたドラマである。脇役ではあるが、近代産業の草創に多大な貢献をした人物として登場しているのが三菱の創設者である岩崎彌太郎（1835～1885）である。

今回紹介する旧岩崎邸（重要文化財）は岩崎彌太郎の長男久彌（三菱の三代目総師）（1865～1955）が明治29（1896）年に東京都台東区池之端に建てたと伝えられる木造の洋館です。

私は18名の当時の「日本建築」セミナー会員と共に平成13年に一般公開（平成13年10月）前の修理工事のための室内展開図作成に携わる機会を得ました。調査は1月～6月にかけて、延べ6回、9日間を要しました。

完成当時の岩崎邸は15,000坪の敷地に20棟以上の建物がありました。敷地は越後高田藩江戸屋敷から舞鶴藩知事・牧野氏などを経て岩崎家本邸へと変遷したものです。現在の敷地は当初の約1/3余りとなっています。現存する3棟のうちの1棟が、木造2階建・地下室付きの洋館です。17世紀の英国ジャコビアン様式を基調に、ルネサンスやイスラム風のモチーフなどが採り入れられています。

1階部分に玄関・食堂・厨房・書斎・客室、2階部分に客室・集会場、地下には倉庫・機械室・通路が設けられています。小屋組は洋トラスで小屋裏には高置水槽があります。戦後GHQに接收され、返還後、国有財産、最高裁判所司法研修所として使用されました。（～1970）

洋館と結合されて和館があります。書院造りを基調とし、完成当時は建坪550坪に及び、洋館を遙かにしのぐ規模でした。大工棟梁は大河喜十郎と伝えられています。玄関近くに構えた書院造りの広間には、明治を代表する日本画家・橋本雅邦作といわれる障壁画が残っています。部材のひとつひとつには現在では入手困難な木材が使われています。

撞球室（ビリヤード場）もコンドルの設計で、洋館から少し離れた位置に別棟として建ち、木造平屋で山小屋風です。洋館からは地下道でつながっています。

■ジョサイア・コンドル 1852～1920（大正9年）

英国ロンドン生まれ。明治10（1877）年、明治政府の招聘により、来日。工部学校造家学科（現：東京大学工学部建築学科）の初代教授に就任し、日本で初めての本格的な西欧式建築教育を行いました。門下には、辰野金吾（東京駅を設計）、片山東熊（赤坂離宮を設計）など、日本を代表する建築家があります。自身も鹿鳴館や上野博物館、ニコライ堂他の設計を手がけました。その後、日本で最初の建築設計事務所を開設する一方で、日本画を学び、日本人を妻とするなど、終生日本を愛しました。

桑名市に現存する「六華苑」（旧諸戸邸）（重要文化財）（大正2年）の洋館も晩年のコンドルの設計で、和館がつながってあります。

伊豆長岡には岩崎久彌の別荘だった三養荘（現：プリンスホテル）がある。



「六華苑」（旧諸戸邸）（重要文化財）（大正2年）

（地域文化財専門家・世話人 鈴木敬雄）

引用資料：旧岩崎邸庭園 見学説明資料

社団法人 静岡県建築士会 静岡地域貢献活動センターは、平成9年10月に設立され今年度で12年が経過いたしました。今回の地域貢献通信は、今までの感想・反省点、今後の課題・方向性を述べてみたいと思います。



建築士会がめざす地域貢献

現代社会の価値観の多様化、ライフスタイルの変化等により、地域住民は地域を意識し、自らの地域社会の存在を重視するようになってきました。建築士会の建築士は、地域住民が求める「居住環境の保全・改善、歴史的文化遺産の保全・再生、地域の防災、地域の活性化等」に対して、専門的支援要請に応えるべく進んで地域のまちづくりに専門的立場から積極的に参加提案することが、期待されています。

静岡県建築士会は全国の建築士会の中でも地域密着型の活動の盛んな士会です。静岡県建築士会は、静岡地域貢献活動センター設立以来、数多くの地域の活動団体に助成を行って来ました。建築士の専門的知識を生かし、地域住民と協働で地域のまちづくりを支える活動の輪を広げていくことも建築士の責務のひとつだと思います。よりよい地域づくりをめざす活動団体に今後とも静岡県建築士会は、サポートを行ってまいります。

反省点・今後の課題

●広報活動

以前より、原則年2回地域貢献ニュース、今年度から建築静岡に地域貢献通信を隔月掲載、活動発表会開催時には新聞等に記事として掲載されておりますが、まだまだ、地域住民・地域活動団体のみならず、士会会員の中にも地域貢献活動及び助成制度を知らない会員が数多くおります。以前に助成を受けた地域活動団体の方々から、より多くの団体に声をかけていただく事、東部・中部・西部の各ブロックの方々よりその地域の活動団体の方々へ声をかけていただき、より多くの助成申請が出ることを期待しております。

●助成活動団体

助成団体の地域をみると、西部地区が最も多くその次が中部地区、東部地区の順になっております。東部地区は2団体の助成にとどまっております。東部地域でも活動団体は数多くあり今まで以上に多くの助成申請をお待ちしております。また、新たに建築士会の内部組織（支部、研究会

等）が地域住民と連携した対外的な活動に対しても助成を行う事になりましたので、各ブロック、支部の委員会・研究会等の方々もよろしくお願い致します。

●今後の課題

助成金は、連合会・単位建築士会が基金を積み立て交付しております。基金は連合会、単位建築士会各々の会費からの出捐金、個人・事業者・団体からの寄付によって支えられています。設立時には多くの寄付をいただく予定でしたが、現在の経済状況ではむずかしいものがあります。会費からの出捐金についても、同様の事がいえます。しかしながら、建築士会の地域貢献活動は引き続き行っていく責務があると思われまますので、有効的な活用が必要と思われまます。静岡地域貢献活動センター・地域貢献支援機構は、まちづくり委員会、景観整備機構と連携して、各ブロックの協力のもとに地域密着型の活動として地域貢献を推進していきたいと思われまます。

事例から学ぶ その5 「活力ある二俣再生プロジェクト」

「活力ある二俣再生プロジェクト」の事例を紹介します。事業主体の「二俣みがきの会」は、平成19年度、浜松市が景観法に基づく景観形成基本計画を策定するにあたり「二俣地区」をモデル地区に選定し、二俣の景観づくりの目標や取り組みを検討する「二俣地区景観ワークショップ」を開催、ここで、景観について学び、二俣の景観を考え、景観を通してまちづくりを考えました。二俣に生まれ育った者として、二俣に暮らす者として、二俣を訪れる者として、二俣への熱い思いをもって参加したものがたちが結成した会です。

「活力ある二俣再生プロジェクト」事業の目的

二俣および周辺地域は、川の流れと緑の木々に囲まれた自然豊かな地域です。しかしながら、同時に少子高齢化という問題の先進地でもあり、便利さと働く場所を求めて人口の流出も続いています。

この地域に培われてきた歴史と文化、川と里山に囲まれた豊かな自然は、いつの時代にあっても次代に残したい大事な宝であることに変わりありません。

二俣および周辺地域において、これまでも多くのまちづくりに対する提言があり、活動が行われてきました。他ではなくこの地域で暮らし続け、この地域にたくさんの人をむかえたいと望む私たちは、こうした先人の知恵や行動に学び、この宝を大事に守りながら、さらにいくつもの宝を見つけ、みがき育てていきたいと考えています。



●空き店舗を再生しオープンさせた北遠アンテナショップを店舗展開するとともに活動拠点とする。



北遠アンテナショップ「天」



まちなみ講演会

●地域資源を結ぶ回遊ルートづくり



まちづくりマップ



町並みルート案内ツアー

●里山の放置竹林の整備



里山の竹林整備



寄せ植え用器作り

●50年後 100年後、二俣で暮らす人たちへ



明治15年



昭和45年



平成21年

約100年前、50年前の二俣のまちの写真です。先人たちの「ああしよう」「こうしよう」と流した汗が、私達に「歴史」と「川」と「里山」を残してくれました。歴史と自然が調和した美しい「景観」、そこに暮らす人々が育んだ「文化」、これらは何よりも二俣のまちの宝であり個性です。私達は、その宝を、個性を、みがき育てて、次の世代に引き継ぐ「まちのこし」の役割を果たしていきます。

「二俣みがきの会」に興味のある方、参加したい方の問い合わせ先

連絡先：二俣みがきの会 会長 中谷 悟
TEL 053-925-4707
FAX 053-925-1548

2009しずおか木造塾 第4講座(設備)

早津 和之(官公庁支部)

平成21年12月13日(土)に昨年も講師をお願いした知久設備計画研究所の知久昭夫所長(東京)に「設備図面の読み方、書き方」をテーマにお話しをしていただいた。

知久さんの事務所は設備専門であり、戸建住宅の設備設計は割に合わなく、大きな邸宅でない仕事にならないと現状を伝える。

著書の『建築家のための住宅設備設計ノート』(鹿島出版会)は仕事机の脇において時々調べてほしいという。

■ 記号が多い設備図

器具や配管類を図面化する場合、細かくなってしまうので、約束事を決めて記号化し、「凡例表」が使用されていて、配管の材質や内径がわかる。

凡例表は設備図面のナビゲーターで、電気設備や空調衛生設備のイラスト入りはわかりやすい。

設備図面は線だらけでうんざりしてしまい、書く人はわかって書いているが、読む人はいやになってしまう。一枚の図面に4種類あるという。

自分のものとするためには、色鉛筆やマーカーを使って住宅設備図面を追う。所員が作成した図面も色塗りでチェックしている。

- ① 給水(水色)一道路本管から追っかける。
- ② ガス本管一台所から追っかける。
- ③ 排水一下水から追っかけていく。
- ④ 給湯一湯沸かしやボイラーから追っかけていく。
- ⑤ 冷暖房と換気はわかりやすい。

イラスト入りの凡例表で各種設備の器具を表示する。

都市設備(給水本管、下水本管、都市ガス本管など)を関連会社に出向き、埋設状況や配管サイズを確認する。

■ 給排水衛生設備

給排水衛生設備図は、まず衛生設備器具(大便器、洗面器、水洗類)を選定し、図面に落とし込む。

そして、排水管などの配管類(給水、給湯、ガス)を書き込む。

衛生器具と配管との接続位置も明示する。給水栓の記号は昔のハンドル型の水洗を上から見て、記号化したものであり、給湯栓は給水栓の記号を黒く塗りつぶし、混合栓は左半分を塗りつぶしたものを指す。

「排水柵」は小口径塩ビ柵が経済性と施工性の観点から主流になってきている。止水栓は水道局が開閉するもので、普通いじらない。

「大便器」はたくさん種類があるが、水のたまっている部分が多いものが高級品であり、最近の大便器は床給水がほとんどである。

「排水管」は実線で、給水管飲用は一点鎖線で書く。給湯配管は湯沸かし器から追っかけてチェックする。ガス配管は外から追っかける。

配管の継ぎ手には90°か45°の継ぎ手しかないが、それ以外の角度で接続するときは、ニップルを用いるが、配管のレベルを変えざるを得ない。

一般住宅の給排水設備用の配管サイズは100mm以上はほとんどない。(給水管20A、トイレ100A、ガス管20A)

配管末端の納まりで、2階以上に便器等排水器具を設置する場合は、排水すると縦管に大きな負圧が発生しトラップの破封を防止するため、必ず通気管を設置する。

1階床下に配管接続のために、鉛管で約450mm、塩ビ管で約300mmの寸法が必要である。

「ガス管」は地震対策として多くの曲がりを取り、

配管の動きに対処する。

2階に浴室を計画する場合は、ユニットバスが望ましく、床防水と排水に注意する。バス兼トラップと排水コーナー継手の組み合わせがよい。

■ エアコンと換気設備

エアコンの横引きドレイン管が露出しているケースが多いが、設計段階で処理しておかないとダメである。

エアコンで加湿もできるがコストが高く、普及していない。エアコンの能力と部屋の大きさとの関係は、おおよそ $170\sim 200\text{W}/\text{m}^2$ である。エアコンの効率はCOP（出力を入力で割った成績係数）で示される。（Coefficient of performance）

例 COP = 5.71

2004制定の省エネ基準値3.65を大きくクリアしている。最近のエアコンは10年前の機種に比べ、効率は大きくアップしている。

換気ダクトは丸ダクト（スパイラルダクト）が通常使用されている。

換気ファンは小型のパイプファンが使用されており、コスト、メンテナンス面からも適している。

換気回数（N）は、1時間に部屋容積の空気を、何回入れ換えるかを示す数値を表している。24時間換気設備での換気回数は $N = 0.5$ 回以上とすればよい。

トイレは $N = 5$ 、浴室は $N = 7$ 程度必要で、

トイレに必要な換気量は例えば $15\text{m}^3/\text{h}$ 、浴室には $45\text{m}^3/\text{h}$ 程度となる。

トイレや浴室が外壁に接していない場合は、ダクトファンを用いる。

電気配線図では、配線が交差する場合の記入法などのポイントの説明を受ける。

火災警報器は、既存住宅でも遅くても、平成23年5月31日までを限度として設置完了日が定められ、

寝室や階段に取り付ける。

■ 個性的な建築をデザインする設備デザイン事例

知久講師が設備設計を行った代表的な建築物（18事例）について、『設備デザインが建築を変える』という話を聞いた。

地域環境、地球環境や省エネを考慮した建築設計がこれからの建築設計には求められることから、設備デザインが重要となり、建築のデザインに影響を与えるものとなった。

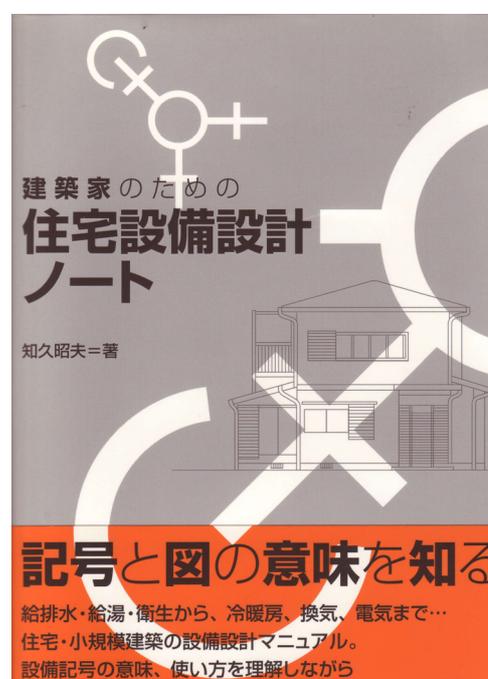
- ・「屋外に電動ブラインド」を設置し、空調負荷を削減（新日建設計本社）

- ・2枚のガラスを離して設けた「ダブルスキーン」の日射遮蔽効果を利用

（豊田市美術館、積水ハウス九段南ビル）

- ・床から2～3m以下の居住域のみを空調する「床吹き出し空調」の省エネ性が注目される。

（登米祝祭劇場、星野リゾート村民食堂など）



知久昭夫講師著 鹿島出版会 2,520円

（設備設計図が描けることを目指し、
設備記号の意味使い理解できる。）

「建築照明の勉強会」第2回講座 開催報告

東部ブロック青年企画委員会 杉山 明生

平成21年11月21日(土)、沼津にて、東部ブロック青年企画委員会主催による、建築照明の勉強会の第2回講座「吹抜けの照明計画」を開催しました。



会場全景

この建築照明の勉強会は年3回予定しており、第1回目が9月19日「省エネ照明計画とLED」についての講座が行われ今回は第2回目の開催になりました。

日頃、照明計画を行うにあたり、知っているようで実は知らないこと、聞きたくても聞けないことが多いのではないのでしょうか?そんな疑問点を直接教えて頂ける講座として大変好評を得ている企画です。

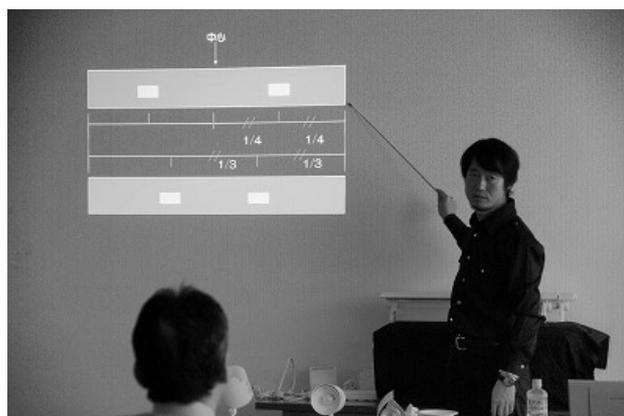
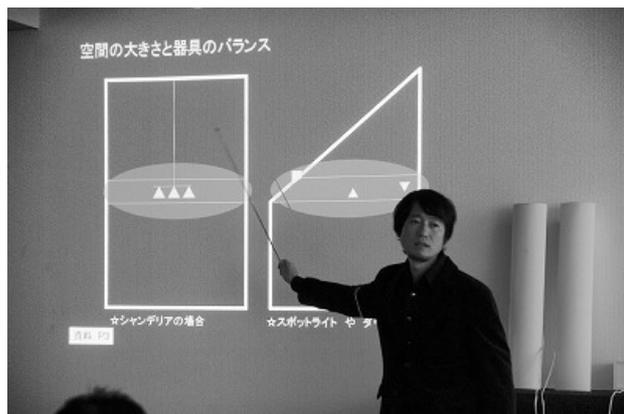
今回は、パナソニック電気株式会社様より、ライティングコーディネーター 墨 貞宏 先生を迎え、約40名の方々に受講していただきました。



パナソニック電気株式会社 墨 貞宏 先生

シリーズ第2回目となる今回は、「吹抜けの照明計画」という題に基づき、吹抜けの大切な4つのポ

イント・メンテナンスの注意・素材の特徴提案・壁を活かした手法・勾配天井/梁を活かした手法の計画ポイント等について、勉強しました。



講座の様子

ただ単に部屋全体の明るさを確保するだけでなく、空間の高さ感や広がりを感じる明かり、空間のポイントとなる明かり、床面や手元の明るさを得る明かり等、取りつける位置や高さ、壁からの離れや照明の数によって全く違う空間の演出が出来るという事が良くわかりました。又、吹抜けの計画を行う場合の壁や梁・キャットウォークを活用した明かりの使い方等大変勉強になる内容でした。

受講された皆様からも、「実際に照明を使って説明してくれたのでわかりやすかった。」「実際の仕事に役立つ内容でした。」「初歩的な部分からの説明でわかりやすかった。」「普段なかなか勉強したくても出来ない事が勉強できて良かった。」「吹抜け・斜め天井の時の照明計画がよくわかった。」等の感想を頂き、大変有意義な勉強会になった事と思います。



実際に照明を使っの説明

今回の講座でシリーズの第2回目まで終了いたしました。第3回目も平成22年1月16日(土)に「建築化照明」という題で建築照明の勉強会が行われました。

年3回シリーズではありますが、今まで受講された事がなくても、その都度参加できるように、各回1回ずつの内容完結で行っております。来年度以降もこのような勉強会を行っていきたいと考えておりますので、まだ参加された事がない方は是非、参加

されてみてはいかがでしょうか？

又、今後開催してほしい勉強会や興味がある事等ありましたらご意見頂きたいと思ひます。

東部B事務局

TEL 055-933-8201 FAX 055-934-2202

E-mail toubu-b@shizu-shikai.com 迄



実際に照明を使っの説明

～今回講師をしていただいたパナソニック電工株式会社様からのお知らせ～

あなたの設計に必要なコンテンツを集めました

P.L.A.M.

denko.panasonic.biz/Ebox/plam

2009.11.11 OPEN

P.L.A.M(プラム)は照明設計のためのポータルサイトです

- 設計者がイメージする「空間演出手法」から施工事例を検索可能
- 明るさ感評価指標「Feu」を用いた分野別のモデルプラン
- 照明設計ツール(ルミナスプランナーライト)を、より使いやすくバージョンアップ

免震構造物の定期点検について（1）

株式会社免震テクノサービス 古畑 成一
株式会社アンデン東京 遠藤 守

はじめに

免震構造建築物は地震時の安全性が免震部材の機械的特性に依存し、地震時に地盤と上部構造との相対変位が在来の建物に比べて大きいことから、免震部材及び上部構造周辺の継続的な点検を通じて所定の免震性能を維持させるため、定期的な点検が行われている。

チェックポイントとしては免震層・建物外周部のクリアランス、エキスパンションジョイント等に関し免震建物の水平移動が可能かどうか、「上部構造は支障なく動きうるか。」であり、免震部材が目視できる状態にある場合、「免震部材に劣化・損傷はないか。」、外観上の著しい変化や損傷の有無について調査している。また、免震建物点検技術者等による「定期的な点検が行われているか、また地震等が発生した場合の応急点検を実施しているか。」も聴取している。

実務で行われている点検の報告書は本文と付属書から構成されている場合が多い。

本文は、点検結果を総括したもので、結果と以後何を必要があるか記載されている。

付属書は、建物概要、点検管理体制、点検内容、免震建物の維持管理基準-2007(JSSI)、点検方法と点検結果、免震部材配置図（下げ振り・ケガキ・クリアランス位置図）、設備配管・電気配線位置図、検査データと検査状況写真、及び点検チェックリストが示されており、特に不具合がある場合は状況写真と位置図が示される。

ここでは、(社)日本免震構造協会が定める検査項目（免震建物の維持管理基準-2007(JSSI)）抜粋に関し、実際に行われている点検内容が判るよう写真を使って説明するとともに、実務で行われている報告書の検査結果総括やチェックリスト等も紹介する。

なお、以下の解説では免震装置を日本建築学会の免震構造設計指針に倣い、免震部材と称している。

[実際の報告書事例]

第5年次定期点検報告書

欄A ビルメンテが受諾しました。免震部「免震 A 社本社ビル」の「第5年次定期点検」を実施しましたので以下にご報告致します。
なお、点検の詳細につきましては添付（省略）の付属書をご確認下さい。

記

1.対象建物

- 1)名称 : 免震 A 社本社ビル
2)所在地 : 神奈川県横浜市

点検した建物名称は？

2.点検日

平成 21 年(2009 年)1 月 15 日,16 日

いつ点検を実施したか？

3.点検実施者

- 1)立会 : 株式会社 A ビルメンテ
建築部技術課長 麻生一男
2)実施 : 株式会社免震テクノサービス
点検技術者 : 責任者 古畑 成一 (JSSI 登録番号 第 04 120 号)

誰が点検を実施したか？

4.点検概要

この定期点検は、下記の基準に基づき実施致しました。
社団法人日本免震構造協会編「免震建物の維持管理基準-2007」
本年は竣工後 5 年目の定期点検として管理基準に従い実施しています。

5.点検結果の概要

何年目の点検か？

5-1 免震部材

- 点検対象免震部材
- | | |
|----------|------|
| ・積層ゴム支承 | 18 基 |
| ・弾性すべり支承 | 10 基 |
| ・鋼棒ダンパー | 8 基 |

使われている免震部材は何か？

ゴムや鋼材部に劣化・損傷はないか？

1).積層ゴム支承

外観点検 (外観目視点検 全数 18 基)

点検はゴムの変質、損傷、鋼材部の発錆、ボルトの緩み、塗装剥離の有無について実施した。(写真 1.2 参照)



写真1 ゴムに変質・損傷はないか
鋼材部に錆・塗膜剥離はないか

写真2 ボルトに緩みはないか

その結果、積層ゴム本体に粘着硬化等の変質や損傷等の異常は発見されなかったが、全体に取付ボルト、ベ-スプレ-ト部の一部に赤錆の発生が見られた。特にボルト部のワッシャ-の端面に錆が多く発生していた。錆の程度はかなり進行している。(写真 3 参照)



写真 3 鋼材部の特にボルトに錆発生している。

変位測定 (鉛直変位、水平変位測定 各 4 基) 異常な変位はないか?
 積層ゴムの鉛直変位、水平変位を計測し、竣工時に計測した値と比較して、異常な変位はないか確認した。(写真 4、5 参照)



写真 4 鉛直変位に変化はないか 写真 5 水平変位に変化はないか

その結果、積層ゴムの鉛直変位、水平変位に異常がない事を確認した。

2). 弾性すべり支承

外観点検 (外観目視点検 全数・10 基)
 点検は本体の変質、すべり板の損傷、鋼材部の発錆、ボルトの緩み、塗装剥離の有無について実施した。(写真 6,7,8,9 参照)



写真 6 ゴムに劣化・損傷はないか 写真 7 すべり面に損傷・異物はないか



写真 8 ボルトに緩みはないか 写真 9 鋼材部に錆・塗膜剥離はないか

その結果、弾性すべり支承本体に損傷、変色、粘着硬化等の異常は発見されなかったが、取付ボルト、ベ-スプレ-ト部に進行した赤錆が見られた。状況は積層ゴム支承と同様である。

変位測定 (鉛直変位、水平変位測定 各 4 基)
 弾性すべり支承の鉛直変位、水平変位を計測し、竣工時に計測した値と比較して、異常な変位はないか確認した。(写真 10、11 参照)



写真 10 鉛直変位に変化はないか 写真 11 水平変位に変化はないか

計測の結果、竣工時初期値検査値と比較して、異常な変位は認められなかった。

3). 鋼棒ダンバ-

外観点検 (外観目視点検 全数・8 基)
 点検は形状の異常、損傷、発錆、塗装剥離、取付ボルトの緩みの有無について実施した。
 その結果、ボルト、ワッシャ-部に塗装剥離、錆の進行が見られ、一部本体部にも塗装剥離、錆が見られた。
 変位測定 (水平変位測定 各 4 基)
 計測の結果、竣工時初期値検査値と比較して、異常な変位は認められなかった。

5-2 建物クリアランス

免震層と外周部の水平・鉛直クリアランスは設計値を満足し、竣工時検査に比較して異常な変化のない事を確認した。(写真 12,13 参照)



写真 12 水平変位に変化はないか 写真 13 鉛直変位に変化はないか

建物の位置に変化はないか?

5-3 建物位置

下げ振りの位置 (5 台)
 竣工時設定した 0 点と比較し最大 3mm 移動している箇所があるが、数値は小さく誤差範囲内である。(写真 14 参照)
 ケガキ装置の軌跡 (1 台)
 竣工時設定した 0 点と比較し東西に最大 6mm 稼動した軌跡が記録されていた。(写真 15 参照)



写真 14 下げ振り位置に変化はないか 写真 15 ケガキの軌跡はどうか

別置き試験体は所定通りに保管・管理されているか?

5-4 別置き試験体

竣工時に設置した別置き試験体は所定位置に保管され、指定圧力で加圧されていることを確認した。(写真 16 参照)



写真 16 別置き試験体の保管・維持に問題ないか

以下次号に続く

平成21年度 第5回 理事会及び 第1回理事会・支部長合同会議議事録 抄

1. 日時 平成22年1月21日(木)
13時30分～16時45分
2. 場所 建設業会館 4階 会議室
3. 出席者 理事定数16名 出席16名
委任状提出0名 欠席0名
監事定数4名 出席4名 欠席0名
定款第19条の規定に基づく定足数を
満たし、本理事会は成立
支部長 16名 出席 15名
代理出席 1名
(内 理事兼務出席 3名)
4. 司会 飯尾 清三 常務理事(浜松)
5. 会議
(1) 議長 西山昌行 会長
(2) 議事録署名人 大石泰史(小笠)
大中成介(浜松)
- 上記議事録署名人は議長の指名により選任された。

西山会長より組織改革についていろいろと皆様方にお諮りしてきているが、今年度もきょうと、それから予定ではあと3月の理事会と後2回を残すのみとなった。年度も迫ってきたところであるが、いろいろと支部長様方を初めとして、いただいた意見をもとに、我々も限りある時間の中でいろいろと練ってきたつもりです。本日はそれをお示しながら、また、皆様方の御意見もちょうだいできればと思います。いろいろと中身については、非常に難しい問題も多々あるかと思いますが、御協力のほど、よろしくお願ひしたいと思うとの挨拶があった。

議 事

(1) 議題 1 新入会員の承認について

事務局より新入会員について、平成21年10月21日から12月31日までの間に申し込みのあった正会員6名の方の入会、12名の方の退会、賛助会員2社の退会及び正会員の支部移動1名についての承認を求め、入会が6名、退会が12名で計6名の減になり、2,198名の正会員と賛助会員は2社の減ということで304社、計2,502名ということになった説明があった。

司 会 質疑の有無確認

議 長 承認の意思確認

賛成者多数の挙手により承認された。

(2) 議題 2 副会長の任期について

西山会長より役員の任期について、2期4年を原則とし、3期6年を限度とするという規約があって、先般の理事会の席上において、1年でも1期は1期としてカウントするのかという質問に対して、1年であろうが、それは1期としてカウントするという話をした。しかし、佐藤副会長、神谷副会長が副会長に就任したのが平成18年度で、18、19で1期、前年度20年度は1年で1期、そして今回ということで、トータルでは4年では有るが、期としてはこれで3期ということになる。今般いろいろな組織改正、改革が進んでいるなかで、来期は今までのこの経緯を十二分にわかっている方をぜひとも副会長として候補者に挙げて頂きたいということで、この提案をしたとの説明があった。

司 会 質疑の有無確認

議 長 承認の意思確認

賛成者多数の挙手により承認された。

報告事項

(1) 平成22年度、23年度、会長候補指名選考委員会よりの報告について

原田委員長より平成21年12月9日に、第1回22年度・23年度会長候補者指名選考委員会を開催し、委員長に私と、副委員長に中部ブロック静岡支部の土屋勝美さんが選任された。

今後、会長候補者の資格要件を示すとともに、会長にふさわしい候補者の推薦を受けるといふ公告を行うことを決定し、締め切りを12月15日として「建築静岡」11月号に挟み込みを行なった。その結果、静岡支部の推薦を受け、清水支部と榛原支部、それから静岡支部の3支部連名とする推薦書が提出され、西山昌行、現会長の指名の推薦があった。

平成21年12月24日に、第2回の委員会を開催した。審議した結果、22年度・23年度の会長候補者として、推薦のあった西山昌行さんが相応しいということで指名選考をすることを決定した。

審議内容について、資格要件、推薦理由等についての検討を行い、推薦理由として、3期6年の副会長、1期1年の会長としての実績があるということが理由であったが、委員会の中で、漠然とした理由であることから、要職である会長職を受け

るに当たって本人の所信等が聞けたらという意見がでた。

たまたま隣の会場に会長が会議に出席していることから、私どもの委員会の席にお出で頂き、決意と所信を聞くことができた。

その後、各委員にそれぞれ意思確認を行ったところ、全員から推薦に対する賛同が得られたということで、委員会として満場一致で、西山昌行さんを会長候補者として推薦することを確認した。

また、委員会の中で、今ブロック化等公益法人に伴う組織改革等が迫られ、一刻の猶予もならない状況の中で、常に会長として強いリーダーシップが求められる状況で、もちろん会員も協力して、この難局を乗り切らなければならないが、執行部には速やかな情報の開示を行って、現在の局面の打開をお願いしたいという意見があったことを申し添える。

それから、今後のことについて課題というか、話として出たので、あえてここに記載をした。ブロック化に伴う選考基準の見直しということが1点。これは、今、みずから所属する支部の推薦があるとか、3支部以上の推薦があるかということで、ブロック化になると、この辺がどうなってくるのかなと、見直しも必要になるのではないかと思う。

今回、この指名委員会の中で、西山昌行さんを会長ということで指名をさせて頂いて、この理事会で多分決議をされると思うが、総会の席で、会長職は理事の互選ということになっているので、指名委員会の結果と相違をする場合があるのではないかというような意見もありまして、その辺の整合は必要になるのではないかという、問題提起をします。という御報告があった。

司 会 それではここで、次期会長候補に指名されました西山会長よりお気持ちをお願いします。

西山会長より今回のこの改革は、会長一人で出来る訳ではない。とって、総務会あるいは16名の理事の皆さん方だけでできる話でもない。やはり、16名の役員の皆様方は中心にはなるが、2,200名余の会員の皆さんが、この改革に理解を示し一致協力してくれてこそ、初めてこの改革は前に進んでいくと理解をしている。したがって、そういった会員の皆様方の御理解、御協力が頂けるという前提であるならば、私はあえて火中の栗を拾って歩く、向こう2年間ではあるが、お受けするという話をさせて頂いた。

故に、これから先々、いろいろと来期役員をお

受け頂ける方々も苦勞の連続かと思うが、ぜひとも2,200の会員の皆様方が一致して、この改革を進めていくという総意のもとに、この会長候補として今回お受けをさせて頂くということで、よろしく願いできればと思う。との話があった。

大中理事より先ほどの今後の課題について、もしこの場で話ができるのなら、選考基準をどうするのか示して頂きたいとの発言があった。

司 会 大中理事より原田委員長からの報告の(3)その他、今後に関する課題に対する提案があったが、いかが取り計らいますか。

鈴木敬雄常務理事よりいろいろな細かいところや委員会の関係もあるので、どこかの検討委員会で検討するというように、この場では決めて頂いたらどうかと思う。との発言

司 会 鈴木常務理事より担当委員会なり担当部に諮問するというので、どなたか御意見はございますか。

大中理事、西山常務理事及び神谷副会長より提案がされ、総務会で検討することで決定した。

(2) 支部からの質疑に対する説明について

神谷副会長よりブロック化推進資料に基づき説明があった。

冒頭、平成17年8月31日に将来構想特別委員会から、当時の会長、飯田会長に提出された答申書に、支部組織のあり方について、支部を再編し、東中西の3ブロック化を図る。ブロック事務局を立ち上げ、現在の支部事務の合理化とスリム化のため、事務機能の集約を図る。ホームページの充実とメールリストの開設による連絡網の整備、その他、各種事務の電子化を積極的に進める。委員会の事業見直しを進めると同時に、特別委員会、常設委員会の統合を図る。行政との関連があるものは独立組織として統合する。等々のことが書かれていること。

また、建築士会組織図により今後の組織の形態等地域、地区のあり方及び委員会、専門機構の活動について説明した。

司 会 それでは続きまして、財務検討委員会から、佐藤副会長より発表します。

佐藤副会長より平成15年～21年の一般会計収支決算書総括表を基に、建築士会が置かれている状況、今後の事務局の方向性について説明があった。

また、**飯尾常務理事、細澤理事**より予算書等の詳細な説明があった。

飯尾常務理事より建築士会のホームページのリニューアルについて、まだ基本構想の調査という

段階であるとの前提で説明があった。

今後のホームページの機能として、一般向けのサービスと、会員向けのサービスと、事務局の管理側の部分のサービスと3つに分け、一般向けに関しては静岡県建築士会の紹介、会員紹介、入会案内をして、入会をホームページ上で申し込みができるというような形をとれたらなと考えている。

大事なところの会員向けサービスですが、会員は会員専用ページにログインをして自分の情報を見ることができるということで、それぞれ個人の情報をそこにに入れていきたい。CPD制度のポイントであるとか、管理建築士の資格であるとか、そういったものをすべて自分の手帳代わりに常に状況がわかる。ですから今度の講習会はいついつまでに受けないといけないとか、そういった自分の情報をすべてホームページ上でわかるというような形になっていたらなと、それと、講習会等の申し込みもホームページ上で出来て受講料の決済等もできる。そのようなことを考えている。

それとあと管理者関係ですが、お知らせ等のメールマガジン、会員の情報、いわゆる会費の未納者であるとか、そういったものがすべてホームページ上、会員情報の中で管理できるように考えている。

それとオプションになるが、携帯電話でもアクセスできるようにしたい。

(休憩)

大中理事より先ほどの議題(2)の副会長等の任期について、もう一度確認であるが、副会長の任期を現状よりは、具体的にどういうふうにしたということかの質問。

飯尾常務理事より現状のお二人の副会長も22年度・23年度の副会長候補の資格があるという回答。

大中理事よりその根拠になるのは、以前会長は、1年でも2年でも1期は1期だという話をしたが、佐藤副会長と神谷副会長に関しては年数だけ加味するというので良いのかとの質問。

西山会長より3期6年を限度とするという表現になっており、そのまま読み解けば、1年でも1期は1期であり、今年度終了する時点で3期に該当する。しかし、こういう状況にあるので実質的にはまだ4年しか務めておられないということで、今回は特別にその規約を離れて情状を勘案した上で、22・23年度も候補者になり得るところで御了解を頂きたいとの説明があった。

大中理事より今回は佐藤副会長と神谷副会長に

ついてのみという理解で良いのかとの確認があった。

朝比奈副会長より「新公益法人制度に係る説明会質問事項」及び「定款の素案2」について説明があった。

公益法人になるためには平成25年11月30日までに申請をしなければならないこと。その申請に多分、これから総会をやったりいろいろやったりすると、1年近く申請にかかるのではないかと考えていること。また、静岡県内だけで750法人ぐらいがあって、もし24年に申請しても、申請法人が多過ぎて、25年の11月30日までに間に合わないかも知れないとの懸念を示した。

そして、公益法人になるための事業仕分け、あるいは会計、定款、そういうものを県のほうとできるだけキャッチボールしながらやってかないとだめだということをお聞きした。できるだけ早めに出して県とキャッチボールして、公益法人に25年11月30日までに間に合うような格好に持っていきたいとの説明があった。

司会 昨年12月15日までに各支部より頂いた御意見等を纏めたものの説明を神谷副会長よりお願いします。

神谷副会長より本会としての方針として今の状況についての話を踏まえた上で、各支部からの意見に対する本会の見解について資料を基に説明をした。

司会 副会長3名より報告がありました。このことについて質問等をお願いします。

弓場三島支部長より新しい会費がまだ決まっていはいないようだが、大体どのくらいになるのか教えて頂きたい。そして、新会費の施行年度が何時からになるのか、確実なところを知りたい。

また、支部の財産を処分するとしたら何時ごろまでにしたらいいのかどうかとの質問。

いろいろの議論の後、

弓場三島支部長より各支部でよく検討して間違いないようにやってくれということでもよしいか、あとの責任は自分持ちと。との提案がされた。

佐藤副会長より弓場支部長が言われた通りにやって頂ければ大変結構だと思うとの発言。会費の値上げは、できたらいいなことですが、なるべく取り崩しがなくなれば良いと思っている。金額は3万円少しプラスになることから3万円が目途かと思う。そして、時期は23年度を予定していきたい、まだ理事会決定してないので、次の3月の理事会で決定をさせて頂いて総会に掛けると

いう形で段取りできればベターで、1年猶予をおいて次の年からということになれば有難いと思っている。と回答

弓場三島支部長より仮に任意支部を、地区会とは別に、友好団体としての親睦団体をつくる場合に、例えば三島市建築士会という名称というのは社団法人とか公益法人とか使わなければ別に問題ないということかとの質問。

西山会長より法律上では、例えば静岡県建築士会三島支部と名乗ることは可能であり、これは県とも今までの打ち合わせの中で確認をしている。ただし、内々ではその話は通用するが、外部から見た場合には非常に紛らわしくなる、混乱を与えるものになるのではないかと、でき得れば枠の外の団体名については極力建築士会という名前を使ってほしくない。別の名前、例えば三島建築クラブというような名前が良いとの回答があった。

水野小笠支部長よりきょうのこの理事会で、新しい会費については提案し総会に諮るということで、3万円に上げる方向での提案と考えてよいかとの質問。

佐藤副会長より3万円にしたいということで3月に提案をしたいとの回答。

水野小笠支部長より平成20年の第1回の理事会・支部長会議があって、ブロック化していくという話の中で、会費はどうか質問をしたところ、前会長は上げませんと。まして、これから建築士の登録のお金が入ってくるのもっと豊かになるという回答を頂いた。

その時には、平成21年度には会費が大変になるという話は分かっていたはずで、何でその時に言ってくれなかったのか非常に残念に思う。やはり3万円にするにはもう少し合理的な理由を作って頂かないと、会員の皆さんに納得してもらえないと思う。理事会で具体的な、合理性のある説明をして頂いて、我々支部長に下ろして頂きたいと思う。との意見が出された。

司 会 今のことは総務会、理事会で検討していくということでよろしいですか。

水野志太支部長より清水支部のほうの回答の中で、現在まだ支部が活動しているので、本年度は中途半端な三層構造云々ということが書いてあった、一刻も早く新体制を整えてということがありますが、これはそのまま取りますと、ブロック支部にしますよということで、支部は無くなりますよということを単純に考えていいか。

ということは、私どもとしては、ブロックでは大き過ぎる、もっと小さな形をとりたい。地区会

とか地区という名前でやろうとしているが、このところでの活動というのが全然できないのではないのか、志太支部としては、この中で小さな集まり、勉強会ですとかいろいろなことをしますので、当然それなりに活動費もかかります。ですからサテライトの形が欲しいし、その中には事務局員もほしいと思っている。との発言

司 会 ありがとうございます。今のことにしましては聞き置くということでもよろしいですか。

早津官公庁支部長より支部資料として官公庁支部廃止ということ、今度3万円になるということがあるが、うちの会員約70名いるが、伝えるとおそらく9割方やめてしまうのかなと思っている。

なぜかという、もともと始まった経緯は、公務員が士会に入っていないから入るようにしようということで100名近く入って、徐々に減って今70名で何とかキープしている状況にある。それが数人になってしまうのかなと。また、全国の単士会の活動状況について情報として欲しいとも思っている。

最後に公益法人の扱いですが、どうしてもメリット、デメリットの話になって、ちょっと会員の方に説明するのは難しいと思う。また、ブロックの負担が、会計処理などが増えて、とても1人では恐らくやっていけないと思う。最低二人いないと、当初からないと会計処理、委員会活動もできないと思うので、その辺の手当てはしっかりやってほしい。そして、公益法人の他県の建築士会の進捗状況等情報が入ったら教えてほしいとの発言。

司 会 それでは幾つか御意見いただきましたが、他県の公益法人の申請状況についてお答えするというでよろしいですか。

西山会長より全国的な状況はちょっと把握していないが、東海北陸ブロック7県の中での話して、愛知士会は既に公益法人として申請を出してある。前回のブロック会議が11月でしたか、今ちょうど県とやり取りをし始めたところだということ聞いた。岐阜県建築士会についてはやはり公益社団を目指すということで、既に定款については県と大体協議が終わっているということ。あとの他のところも大体公益でいくと。なおかつ支部もその中に含めてやっていくというような話も聞いている。連合会については、22年度に公益申請を出すということで動いている。との報告があった。

また、先ほど早津支部長の御意見で、退会者が多く出るということだが、できるだけそうならないような形でお願いしたいと思う。同じ会員として行政の方には地域と会員とのいろいろな情報の

パイプ役としてぜひとも残って頂きたいとお願いしたい。との要望がされた。

矢田部賀茂支部長より先ほど会費を3万円ぐらいにしたいということで説明を受けたが、3万円にすると恐らくやめる人がかなりいると想像できる。また、何年かして値上げしなければいけないという、追いかけてこなるように思う。これから新規に入る人をどのように増やしていくかを役員の方はもう少し知恵を絞って、会員を少しでも増やして会費を幾らかでも安くして運営したほうが良い。それと、先ほど予算案ですが、会費を値上げしても管理費と事業費がかなりのウェイトを占めているので、今の国会じゃないけど、仕分けをして、なるべくスリムにして一回出直したらどうか。との意見が出された。

司 会 今のことですけれども、御提案ということでよろしいですか。では総務会理事会にてこれらを検討しながら進めていくということをお願いいたします。

西山会長より今我々がやっているのは、我々のためというか、この建築士会のため、この建築士会を少しでもよりよい形にして後々の方たちにバトンタッチできるようにと、我々はその礎を築くがために今こうやっていると苦労していると私自身は解釈している。

先ほどの矢田部支部長からもあったが、役員だけが考えるというスタンスではなく、やはりみんなでも考えることだと思う。我々は横一線同じ立場にいますので、すべてを役員に任せて役員から話が出なかったから役員は何をやっているんだということではなくて、役員も考えてもらいたい、我々も考えると。もしかしたら役員だけが考えるよりも皆さんが考えられたほうがいい知恵が出てくるかもわからない。やはり10人で考えるより20人、30人と多くの皆さんが知恵を出し合うことによって、その中からさらにいい案が生まれてくるかもしれないということで、ぜひともこの士会を良くしていくためにみんなでも考えていこうということを、基本理念に据えていただきたい。との意見が出された。

望月清水支部長よりブロック化推進資料の中に、地区という名称に変更するということがあって、それは、現実的には地区の人が動くという意味合いだと思うが、会員の所属というのはやはりブロック単位で考えるべきだと思う。また、活動も各地域でやっているものは継続していくということで大変結構だと思うが、予算的な問題で多分、あれもだめ、これもだめというのが多少出てくる可能

性があると思う。それと、その地区の中に当然各委員会があります。役員会もやります。そういった費用まで全部ブロックで見てもらえるのか。また、事務員については専任になるということで、それを何時までにはっきりするのか。そして、予算案の中では、今年度の1,100円の委託金、これがゼロになっているが、その辺をどうするのか。我々支部へ帰って、きょうのこの報告に伴って説明会を開きますということで会員に出してある。もう少し明確に物事を進めて頂きたいとの要望が出された。

佐藤副会長より会員の所属はブロックになる。支部は廃止ということで、地区に名前が変わる。地区での委員会等は、来年はとりあえず支部という名前が残るので、どのようにしていくか支部で検討していく。

それからブロック事務局は来年度から一応専任にしていくということ、予算案について、これは私案であるが、支部で事業をやりながらブロックで事業をやるということは大変なことだと思う。そこら辺も踏まえて本会のほうも事業の見直しをし、なるべくスリム化をしていきたいと思っている。会費の徴収費の1,100円は検討資料の中では含んでいない。これから予算案を組んでいくこととなるのでその辺も検討していき、2月の半ばに総務会あるので、15日から20日の間に返事をするとの回答。

望月清水支部長より23年度からの会費について、地域会を運営するためには幾らかのお金が必要で会費を別に集める。そのために、本会の会費3万円をもうちょっと減らしてもらいたい。との要望が出された。

司 会 その件も含めて検討課題ということで。時間がちょっと過ぎました。今のことに關して御意見等ございましたら、またファックス、メールなりで事務局まで出していただけたらと思います。

では長時間にわたり理事会、理事会・支部長合同会議ありがとうございました。これにて閉会します。

お知らせ

入退会者

H22.1.21現在
正会員 2,198
賛助会員 304
合計 2,502

☆新入会者の紹介

支部名	氏名	級	生年	勤務先
熱海	守田 昌利	1	S20	株式会社 時空間 熱海市西山町38番11号
清水	小野 耕司	2	S49	
志太	池田 篤人	2	S51	池田建築 藤枝市田中2丁目1-28
中遠	山口 哲夫	1	S12	㈱プラネットエデン 山口 建築設計室 磐田市上大之郷408
浜松	鈴木 啓純	1判	S47	(株)ルクール 浜松市南区参野町67-1
浜松	山内 秀彦	1	S35	株式会社 東海開発研究所 浜松市中区常盤町133-13

☆退会者

正会員 8人
安藤 英雄 (伊 東)
内野 右基 (沼 津)
市野 貴弘 (裾 野)
岡崎 功 (清 水)
高橋 正恒 (静 岡)
又平 秀男 (志 太)
袴田 昂 (浜 松)
大河 幸雄 (浜 松)

賛助会員 2人
綿半鋼機株式会社静岡支店 (清 水)
サーラガス磐田 (株) (中 遠)

☆物故者

鬼窪与志治 (賀 茂)
高木 睦夫 (賀 茂)
石井 正彦 (伊 東)
渡辺 博佳 (浜 松)

ご冥福をお祈り申し上げます。

ご意見募集

静岡県建築士会広報情報委員会では、広報誌「建築静岡」をより有益な情報源とするためのご意見・ご提言を募集しています。お名前・支部名をご記入の上、下記あてにFAXでお願いします。

(株)静岡県建築士会 広報誌意見募集係 FAX 054-273-0478

なお、いただきましたご意見は非公開とし、個々のご意見に対しての直接回答はしないことを原則としておりますのでご了承下さい。

Staff by 広報情報委員会 編集後記

担当常務 齊藤 功 (東部) (中部) 中野 年浩
担当理事 細澤 啓司 (東部) 小沼 勝也
委員長 杉山 真一 (中部) 村松 和人
副委員長 鈴木 忠 (東部) 佐野 正道
 (東部) 竹内 清二 早津 克敏
 大多和安紀 (西部) 須和部 正彦
 村松 正 福田 光宏
 三田 芳之 志茂野 昌歳
 塩見 敏弘 村上 浩
 渡邊 治 内山 孝
 長尾 隆行 鈴木 利和

今回初めての編集長となりました。3月号の特集は、去年静岡県内にて行われた「国民文化祭」の一環で築城した「二俣一夜城」を取り上げてみました。

去年から今年にかけて社会情勢が厳しくなっています。こんな時代こそ、常に前向きに生きて行きたいですね。

今回、寄稿して下さいました皆様方には深く感謝申し上げます。

3月号編集長 浜松支部 内山 孝